

医学教育分野別評価 浜松医科大学医学部医学科 年次報告書 2024年度

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 2
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36

はじめに

本学医学部医学科は、令和元年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、令和3年2月1日より7年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版Ver. 2. 36を踏まえ、令和5年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、令和5年4月1日～令和6年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版Ver. 2. 36の転記は省略した。

2. 教育プログラム

2.2 科学的方法

基本的水準

改善のための助言

- ・ 批判的思考、EBMを6年間にわたりらせん型かつ系統的に教育すべきである。
- ・ EBMに基づいた臨床実習教育を充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

6年一貫らせん型カリキュラムとなっているEBM教育において、臨床実習におけるEBM教育の実施状況を調査した。調査した結果を分析して、臨床実習におけるEBM教育の充実を進めることとした。

改善状況を示す根拠資料

資料01 臨床実習におけるEBM教育の実施状況のアンケート結果

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

改善のための助言

- ・ 行動科学について6年間にわたり、らせん型かつ系統的に教育すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

6年一貫らせん型カリキュラムとなっている行動科学教育において、臨床実習中に行動科学の演習を引き続き行った。

4年生「臨床医学総論」について、すべてのロールプレイに対し文章でフィードバックを行い、かつ選出した複数のロールプレイに対して学生と教員で議論した。

1年生「心理行動科学Ⅱ」について、らせん型カリキュラムの一環として、精神医学、緩和ケアセンターで臨床を担当されている先生に講義を担当いただき、行動科学と臨床医学の接点について1年生に早期学習の機会を設けた。

改善状況を示す根拠資料

資料02 行動科学カリキュラム全体像（2023年度）

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

質的向上のための水準

改善のための示唆

・臨床医学を理解し実践するための基礎医学、行動科学および社会医学の視点でカリキュラムの垂直的統合をさらに推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

6年一貫らせん型カリキュラムとなっている行動科学教育において、臨床実習中に行動科学の演習を引き続き行った。

4年生「臨床医学総論」について、すべてのロールプレイに対し文章でフィードバックを行い、かつ選出した複数のロールプレイに対して学生と教員で議論した。

1年生「心理行動科学Ⅱ」について、らせん型カリキュラムの一環として、精神医学、緩和ケアセンターで臨床を担当されている先生に講義を担当いただき、行動科学と臨床医学の接点について1年生に早期学習の機会を設けた。

感染症の垂直統合カリキュラムを検討し、履修規程を改正の上で令和6年度から実施することとした。（webシラバス）臨床感染症学・免疫学）

改善状況を示す根拠資料

資料02 行動科学カリキュラム全体像（2023年度）

資料03 教授会議事録及び審議資料

資料04 教務委員会議事要旨及び協議資料

資料05 臨床感染症学・免疫学シラバス（2024開講年度）

2.7 教育プログラム管理

質的向上のための水準

改善のための示唆

・カリキュラム委員会に、他の医療職、患者や公共の代表者など広い範囲の教育の関係者を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学学生が臨床実習等を行っている学外の病院等の教育担当者3名が、カリキュラム委員会の学外委員として参画している。

改善状況を示す根拠資料

資料06 医学科カリキュラム委員会議事要旨及び委員名簿

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準

改善のための助言

・知識だけでなく、技能および態度を確実に評価すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

質の高い形成的評価を実現するために、ePortfolio運用開始までに、FDにより学生および教員への周知を行った。

改善状況を示す根拠資料

資料07 令和5年度FD講演会実施状況

5. 教員

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

改善のための助言

- ・教員や学外の教育指導者を対象とするFDをさらに充実させ、参加度を高めるべきである。
- ・新任教員に対し学部の使命や教育プログラムに関する研修会を実施し、教育能力の開発と支援を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学外の教育指導者を対象とするFDを実施した。対面に加えオンライン、更にはe-learning化することにより学外からのアクセスが容易となり、より多くの学外教育指導者が視聴した。

新任教員に対して、引き続きPBLチューターの役割についてFDを実施した。

改善状況を示す根拠資料

資料07 令和5年度FD講演会実施状況

6. 教育資源

6.1 施設・設備

基本的水準

改善のための助言

- ・学生に携行可能な医療安全・感染対策マニュアルを配布し、遵守させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和3年から医療安全ポケットマニュアルを配付し、引き続き令和5年も作成した医療安全ポケットマニュアルを臨床実習の際に携帯させた。

改善状況を示す根拠資料

資料08 医療安全ポケットマニュアル2023年度版

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

改善のための助言

- ・学内外の臨床実習指導者に対して、指導法や評価に関するFDを充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学内外の教育指導者を対象とするFD（「日本と米国の医学教育の違い」・「ナラティブに基づく診療」等）を実施した。対面に加えオンライン、更にはe-learning化することにより学外からのアクセスが容易となりより多くの学外教育指導者が視聴した。

改善状況を示す根拠資料

資料07 令和5年度FD講演会実施状況

6.3 情報通信技術

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・診療参加型臨床実習を充実させるために、学生が電子カルテを活用しやすい環境を整備することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

電子カルテの記載方法について、講義を行った。

附属病院に新設した多目的ホールの2階に学生用PCルームを整備し、運用を開始した。運用開始に伴い学生にポータル配信の上周知した。

電子カルテの記載および閲覧に関する学生用のマニュアルを作成し、配付した。学生用PCルームの利用状況調査を行った。

改善状況を示す根拠資料

資料09 医学概論Ⅲシラバス2023

資料10 学生用PCルーム運用開始の案内（ポータルサイト）

資料11 学生用PCルーム写真

資料12 学生用PCルーム入室履歴（2024.1～2024.3）

資料13 電子カルテの閲覧方法と記載方法（学生用）

6.5 教育専門家

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・医学教育に関わる研究をさらに推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育推進センターが邦文誌（雑誌医学）に実践報告を1本報告するとともに、医学教育学会での3演題を含め、その他医学教育について国内で開催された種々の学会で、合計5演題を発表した。

改善状況を示す根拠資料

資料14 医学教育推進センター論文報告

資料15 医学教育推進センター学会発表

資料16 医学教育学会プログラム（ポスター）

7. 教育プログラム評価

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

改善のための助言

- ・IR室が収集したデータをもとに、6年間の学修成果をモニタすべきである。
- ・プログラムとその主な構成要素を適切に評価すべきである。
- ・プログラムが学生の進歩を促すように整備されているかを適切に評価する仕組みを確立し実施すべきである。
- ・プログラムの各構成要素について、どのような課題があるかを特定する仕組みを確立し、カリキュラム改善を実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

IR室が収集したデータを元に、医学科カリキュラム評価委員会において6年生に対するコンピ

テンシーの達成度・満足度、標準修業年限内卒業率および医師国家試験合格率等によって、学修成果をモニタしている。

医学科カリキュラム評価委員会で、各学年の退学、休学、留年等のモニタを行ったり、6年生への卒業時アンケートの自由記述について、プログラムの主な構成要素で分類し、プログラムを定期的に評価している。

IR室にて作成した資料を元に教務委員会および教授会で1年次GPA、CBT、内科学卒業試験、国家試験自己採点結果について評価を行っている。また、入試委員会で入学試験成績や入試区分と医師国家試験合格率やGPAとの関係について評価している。

改善状況を示す根拠資料

資料17 医学科カリキュラム評価委員会議事次第

資料18 医学科留年者・休学者・退学者数

資料19 国立大学医学科等標準修業年限内卒業率

資料20 国立大学医学科等医師国家試験合格率（新卒及び総数）

資料21（部外秘） GPAと共用試験CBT成績との関連等について

資料22（部外秘） 令和5年度コンピテンシーに関する自己評価アンケート調査結果報告書

質的向上のための水準

改善のための示唆

- ・教育活動とそれが置かれた状況を特定し、その状況を踏まえてプログラムを評価することが望まれる。
- ・プログラムの特定の構成要素について、適切に評価する仕組みを確立し、定期的実施することが望まれる。
- ・長期間で獲得される学修成果を特定し、その状況を踏まえてプログラムを評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒後5年目の卒業生にアンケートを実施し、医学科カリキュラム評価委員会で評価を行った。

改善状況を示す根拠資料

資料23（部外秘） 令和5年度医学科の教育に関するアンケート（卒業生対象）

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

改善のための助言

- ・教員と学生からフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

6年生への卒業時アンケートについては、定期的実施し、学生から教育プログラムに対する意見を収集している。

改善状況を示す根拠資料

資料17 医学科カリキュラム評価委員会議事次第

資料22（部外秘） 令和5年度コンピテンシーに関する自己評価アンケート調査結果報告書

7.3 学生と卒業生の実績

質的向上のための水準

改善のための示唆

・学生の学修成果の達成に関するデータを収集し、その分析結果を入試委員会、カリキュラム委員会、および学生支援に関する委員会にフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

IR室が学修成果の達成に関するデータを収集し、その分析結果を教務委員会および入試委員会へフィードバックを行った。

改善状況を示す根拠資料

資料24 教務委員会議事要旨（令和6年度第1回）

資料25（部外秘） 入学試験委員会議事要旨、議事次第及び報告資料

8. 統轄および管理運営

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

改善のための助言

・静岡県地域医療対策協議会をはじめ近隣の県、市町村などの行政との交流を深めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療実習において、静岡県健康福祉部、菊川市、御前崎市、森町と連携して行っている。
静岡県キャリア形成卒前支援プランについて、本学と静岡県とで意見交換を実施した。また、定期的に静岡県医学修学研修資金利用者の学生と静岡県とで意見交換会を開催している。

改善状況を示す根拠資料

資料26 静岡家庭医養成プログラム等パンフレット

資料27 静岡県キャリア形成卒前支援プラン及び打合せメモ

資料28 静岡県医学修学研修資金利用者意見交換会の開催通知等

質的向上のための水準

改善のための示唆

・保険医療関連部門との交流に学生も関わることを望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療実習において、静岡県健康福祉部と連携して行っている。静岡県医師臨床研修・専門研修病院合同説明会に学生も参加して、先輩医師等との意見交換等を行っている。

改善状況を示す根拠資料

資料26 静岡家庭医養成プログラム等パンフレット

資料29 静岡県医師臨床研修・専門研修病院合同説明会（チラシ）